昭和16年3月1日（土）

朝来快晴。午後より幾分下り坂となる。家の中は左程でもなけれども、陽光を受くる処は頗る暖かなり。興亜奉公日。貯金壺円預入れ。為替時間外貯金払戻しの上、六拾円発送方懇願の者あり。乃ち、余立替えの上、価格表記と為さしむ。東本町松本アキとあり。通帳保管す。報告物大部分片付く。

昭和16年3月2日（日）

概ね晴れ。ミワさん歯科医かかり行き、二時間余り待たさると。其の間髯剃り。余専有の味噌作る。甚十郎氏より手紙あり、貢氏宅にて書くと。警視庁にも行きし由。三月かかると云ふ。調査に時日を要する意味なるべし。大連行は取止めるかも知れぬと云ふ。久子より小包、三谷伯母より納豆二つの内、一ヶ送り越す。打ち豆も少し入れ、菓子も入れあり。手紙には隣家の京子さん、東京より販宅。姉さん宅を訪ひたる由。病氣よい方とあり。十時頃、伊勢さん来たり二階の兩人連れて行く。此の家に小豆（色は小豆色なるも、形大豆95銭）茹で潰して、餡作る。五時近くまでかかる。ミワさん巖に、重箱に15ヶ持行かれ、六時三十分漸く夕飯。森田さん等、伊勢さんと来る。伊勢さん野菜沢山負荷し一泊す。萩餅17ヶやる。野菜は一部、余の宅にも、分け前頂く。十時近くまで、仕事す。

昭和16年3月3日（月）

晴れたり曇ったり。切手請求。朝より多数来局、悲鳴を挙げらる。新聞見、中途出勤。葉書売切れ。午後より、中津局に切手受取り。序でに森久に葉書100渡して販局。

伊勢さん六時販る。妹迎えに来たり、行違いとなる。森田さん送って行く。余も続いて行き途中より戻る。森田さんも途中母堂に逢ひ、引き渡して販らる。余報告物の為に十時過ぎまで仕事す。不思議に居睡りせず。上等の御茶を飲みしたためなるべし。ミワさん戸籍抄本、取寄せ方手配さる。久子より年金払渡し局、簗島よりの通知に依る旨、附記あり。

昭和16年3月4日（火）

今朝、可なり冷えたり。天気は風強き為、晴れたり曇ったり。切手受取りに行く。萩の餅夕食分にて竭（けつ）す。合同より国債多数請求あり。逓信局に電報す。朝、小雪降る。チラチラの程度にて積もるに至らず。忽ち歇む。報告物全部発送す。夜、鯨肉。此の日、保険費一月分給与額15, 57到着。九時過ぎ早目に寝む。ミワさん十一時まで仕事す。

昭和16年3月5日（水）

冷氣峻烈。頃日街路の掃除、余受持ち。快晴。切手請求、余行かず。保険失効処理方に関し、恩塚氏に質さん為。序でに切手類も持来らる。守谷さん母堂より、証券売却請求あり。次いで、他よりも同様申出ありて、珍しく二口の取扱いあり。電報原書整理を了す。本日分電報中、料金過剩貼付あり。送信時刻記入洩れあり。ミワさん母堂と湯に行かる。九時四十分寢床。行火（あんか）早く冷え、木炭よりおこして入れたり。

昭和16年3月6日（木）

曇り、多少の雨。朝道子より手紙。大分快方に向かい

るも、咳出で止まらず。猶床上げ出来ずと云ふ。甚十郎さん五日出発。大連に向かふとあるも、午後一時十一分、東京駅より八日「朝八時 門司着 正午 船大連行く 門司駅にて会ひたし 中尾」と電報着。七時凱旋兵通過。十時にも一回通過の由。ミワさん十時分、駅に歓迎。甘藷百匁七銭にて求められ、本日煉炭にかけ蒸し、夕食の際、旨しく頂く。

昭和16年3月7日（金）

朝来降雨、二時頃まで続く。午後、葉書受取りに行く頃まで細雨不歇。二時頃より次第に快晴に向かふ。ミワさん、青海苔百匁1, 30を五十匁、柿羊羹一本65を求めて頂く。

昭和16年3月8日（土）

午前六時、母堂起床。寢室を掃除することを得たり。同二十分より朝飯。甘藷二本残り居るを頂き、御飯は少詳頂き、十分間にて仕度して出発。改札口を今しも出る処、早からず遅れず後部に乗り込み、八時三十分門司着。出口に迂露々々して居りしに、大トランクを片手に、旅行鞆を片手に出札口を出て来られた甚十郎さんに逢ふ。駅横、京船通り飲食店に親子注文。余は茶を飲み咄を聴く。別段、耳に新しき問題なし。最悪の場合久子を一緒に。而して、毎月送金の拾五円を云々。余は道子を引き取り、御迷惑はかけぬと断りたり。神戸より乗船が間に合わざりし為、切符は無効にならぬとも限らぬとのことに、一緒に商船会社に行き、有効なる旨の保証を得て、氏は正午出帆の鴨緑丸に、余は十時三十分発列車にと、別れを告ぐ。待合室にて新聞を見て居る内、時間迫り乗り込む。

正午過ぎ着。夕飯は餅の馳走。伯母より一食分として頂きしものの由。此の日、大方の店休業。快晴、暖かし。

昭和16年3月9日（日）

薄曇り。亡きトメ祥命日。団子や花や色々、御供えす。午後より久子、伯母を誘いに出掛け、市場に買物す。二時過ぎ、伯母連れ来る。此の間に正岡京子宛て小包、及びパイロット万年筆株式会社より書留小包到着。料金は不要にて、小包料まで先方にて支払いあり。久子帰りで、小包は隣家に持ち行けり。四時頃まで、色々伯母と話す。秀夫来たり、一緒に夕餉を済ます。蛸（かき）の天麩羅。余は、伯母が途中より求め来たりし餡餅、一ヶ3銭、50銭弱分を頂き、何も頂かず。六時過ぎ帰らる。蜜柑25銭求め久子と分配す。

昭和16年3月10日（月）

道子に手紙書く。大学の先生より貰ったと云ふ支那土産の菓子キャンデーを食べ、自分には勿体ない感す。道子に贈ってやれと云ふ。久子承知して送ることにす。此の日、頗る暖かにして襦袢一枚にて過ごす。夜の湯暖房は必要なき位なりし。夕方より多少曇り。パン造り呉る。

昭和16年3月11日（火）

午前曇り、午後より雨。風漸く強く、東風窓を激し、雨戸を一部鎖す。夜に入るも歇まず。小包梱包して発送せしむ。手紙は其の後より投函す。堤、竹野にも認む。此の夜、湯暖房を廃す。十時頃、腹少し痛み、睡魔襲へ来る。便所に行きたり。近来斯かる例なし。夕方より多少冷ゆ。

昭和16年3月12日（水）

晴れ。風猶強し。午後より風風ぎたるも、冷氣は猶継続。夜、湯煖房作り呉る。パン食、夜頂く。二郎、栗原（八代に転）、ミワさんに手紙書く。明日伯母さん招待することに、久子に申し合わせたり。

昭和16年3月13日（木）

曇り、朝冷氣強し。行火、火消え居る。特に火を起こして貰ふ。終日曇り、雨模様。金一円渡し、伯母の馳走資料に供す。十一時頃久子、秀夫方に行く。午後一時過ぎ、妙子来邸。本日午後七時、東京に出発のこととなれりと。秀夫、休暇貰ふこと承諾を得たる様子なり。急に夜行にて上京と決す。二日の休暇を利用、上京、登一方に一泊する手筈と謂ふ。臈（やが）て久子帰り、余の家に来るところか、出発準備に忙しと云ふ。仍ってパン50銭分、久子に土産に持たせて遣り、髯剃りして六時半出発。七時駅着く。久子も来て居る。秀夫曰く「大変なこと出来た」と。パス券は15日より効力を発す。博多駅にては特に此の俣乗車を黙認するも、下関にて如何に取扱ふか、保証し難しと云ふ。秀夫の近所の人々まで送り呉れ、餞別を貰ふ。今更帰り難し。余の家に泊めて呉れと云ふ。快く承諾、其の俣引き取る。夜炬燵を造り、寿しを食べる。夜は何も頂く腹なし。久子のみ大方食ふ。

昭和16年3月14日（金）

朝一時降雨せしも、直に歇み、午後より次第に快晴に向かふ。昨夜半、蓄音機を聞かす。昨夜は忠臣蔵芝居を、ラジオにて放送を聴かす。夏蜜柑30求む。伯母も土産にと、80銭分求め土産にせらる。これは久子と一緒に買い

に行かる。久子パン造り、伯母加勢さる。三時過ぎ、蒸しパンにて夕食頂く。ドーナツ及び肉饅頭も出来る。但し饅頭は肉まで煮え通らず、揚げ直す。五時頃、秀夫局より直行。間もなく妙子、子供全員連れて来る。重箱二重に赤飯、小豆はササゲと思ひし。飯は糯米にて造る。久子、明朝汽車に持ち込む分は味飯を作り居る故、赤飯は必要なしとて、之を秀夫に食はす。秀夫には鮭の残りもあり。ドーナツ肉饅頭等は皆、子供等食べ竭（つ）くせり。余は夏蜜柑三つ拾銭と云ふを一つ食べ、一つ伯母に、三つ土産籠に余裕ありし故、空虚を塞げしめ、四つを子供等一つ宛て分配、妙子も夏蜜柑求め来たる由にて、一つ丈け子供に呉れ、他を一緒に袋に入れたり。石井さんからアスパラガス頂きし礼に、蒸しパン及びドーナツ一皿持ち行き、ホーレン草、鶏卵三つ下さる。其の卵を味付け飯と共に、折り箱に茹でて入れたり。斯くて八時過ぎ、秀夫等飯る。煖房伯母にやる。夜、火をとらざりし故、寝ても足容易に暖まらず。十一時過ぎ眠る。

昭和16年3月15日（土）

午前三時起床。五時十五分前、秀夫来る。伯母起き仕度して出掛く。余、荷物を秀夫と分配して持ち行く。朝、冷氣強し。駅に着きし時、猶多少発車に間あり。待合室に女子の啼泣の声あり。五時三十七分発車、飯りも徒歩にて六時着。朝飯は昨夜頂きし赤飯。午後一時、味付き海苔を土産に安武家を堅粕に訪ふ。比恵川を渡り、県道と覚しき大通りを左に、商業学校附近より西堅粕配給所前より濠を渡り、東堅粕に出で、堅粕郵便局の隣家から更に理髪屋にて尋ぬ。此の家の主人は二十年も営業し居る土着の人なるも、姓丈けにて名前を知らぬこととて、容

易に判明せず。客は皆婦人にて、夫婦と小僧を使ってサーヴィスして居る。寺門の四辻角に、柴田と云ふ諸せき屋にて聞けば分かると云ふに、それを訪ふて尋ぬ。若者の指図に依り、トタン塀の間の小路を左に突き当たりの家に、左は母屋、右は小屋らし。父親らしき五十柄みの頑丈な翁、御尻を捲って家内に御茶を据えて貰って居る。其の前、陽当たり良き上がり框に、三十四五の婦人と二十四五の婦人と縫い物して居る。後者は余の姿を見て間もなく立ち去り、主として前、中年婦人が余に応接す。此の家が安武氏の家たること判明。家の光誌が封を切られずあり。今朝到着と云ふ。東京よりの郵便が四角の封筒に入り、針箱の上に在りき。翁は神経痛。長女は十年前、他に嫁し一男を挙げ、病気の為離婚さる。兄妹七、内男二、末弟は商業五年になる。看護婦に朝鮮に行き居り他は、長女を除き皆他に嫁し、長女は妹の嫁し先に加勢に行き居ると。博多駅附近に出て、電車にて松屋に至り、昆布粉を、百匁70を百三十匁91を求め、和博に石盤と石筆を求め販る。販りに飯塚の渡辺庶務主事に逢ふ。新柳町に爪切り50銭にて求め、但し定価表なく、店番は代理とて分からず。

昭和16年3月16日（日）

曇り。昆布粉缶入り95、久子に求めさす。今朝爪切りを求めし露店に訪ねしめ、不足なれば其の料金を支払ひ呉る様申し遣はす。弍拾五銭不足と分かる。鯨肉、市場になしと云ふ。道子より手紙来たり。ピーナツ3斤送り来る。1斤久子に遣はすべき旨、書きあり。戸籍抄本回送越しあり。日曜に付き、明日久子に簗島に提出を命じ置きたり。午後より蒸し麵包、及びドーナツ、卵二ヶを入

れて造らせ夕食。貢、松屋に行きクレヨン、ノート、鉛筆等、一円余求め帰る。雨模様、洋傘持参せしも使用せず終え、湯煖房造り呉る。理髪す。

昭和16年3月17日（月）

午前三時には、間に合いぬ嫌いあり。二時に繰上げ起床す。三時十分二階に上がり仕度す。冬服を更め、襯衣を白木綿のに改む。外套を去り、土産ドーナツ、蒸しパン等携帯す。定時出発。七時三十五分着。曇り、後降雨。ミワさん四時頃より、鯛3円を祝儀に伊勢さんかかり行かれ、帰宅後、更に花井さんの結婚祝儀3さる。ストーブ廃止。可なり寒く、夜、火を炬燵に入れて貰ふ。伊勢さんより販りに、餡入り餅、及び赤白の乾燥野菜等頂く。長男、戦地より無事凱旋せし為なり。

昭和16年3月18日（火）

快晴。葉書一枚もなく、窓口、実に支障あり。ミワさん切手配給係を苦説きて、葉書だけ持来る。午後は切手類、ミワさん受取りに行かる。此の朝、森田さんより貰ひし堅き餅を、焼き煮て食す。伊勢氏の令兄、戦地販り。宇佐に母堂と赴く途中立ち寄り、余何かと咄かけ、三十分間計りにして去る。既に母堂待居られ、バス七時に発車の態勢に在りしと。九時過ぎまで仕事す。為替金額不符号、百円は計算違い。

昭和16年3月19日（水）

午前中快晴、午後は漸次曇り。暖かにして戸外の方気持よし。伊勢さん電報宛名取調べの為、外出。正午を過ぎ二時間に亘るも帰らず。余尋ねて宮永に行き、陽光を浴

び得たり。夕飯に味付け、之を野口さん等、伊勢さんにも振舞ふ。十時まで仕事す。此の日大安日、青井花枝さん婚礼。三時頃自動車にて挨拶廻りす。母堂を初め全員表に飛び出す。余独り居残る。時節柄をも弁えぬ御張り出し。午後五時近く、筑紫亭に乗込み、八時の汽車にて下郷に引上ぐと。下郷は夫の家なり。

昭和16年3月20日（木）

晴れ。午後より切手受取りに中津局に至り、帰途、豊前銀行熊谷氏に保険領収帳配置す。日向は熱くして流汗す。午後一時二十分、英霊到着。学生堵列、迎ふ。森田さん帰途に就く。曩に餅沢山頂きたる礼にもと、柿羊羹三本90贈る。午後十時三十分退局。十一時寢床。

昭和16年3月21日（金）

春季皇霊祭。概ね晴れ、午後曇り。電信物品到着、受入れ処理す。午後より小豆煮たるを餡に造る。野口さん巖方に行く。四時過ぎ巖来る。良助結婚問題にて、小柴より候補者推薦し来れるを、愛子気に入り、一気に承諾を得しめん底意あり云々。久子の問題には触れず、不可解と思ひぬ。五時過ぎ萩餅頂く。餡も瀟さぬ儘にしたるも、頗る上等に出来たり。和博の土産、巖に届けたり。集金区改正されたる由。巖は小柴より通知ありたる人物のみ言及し、曩に約せし久子との問題を度外したる点、諒解を得ず。

昭和16年3月22日（土）

曇り。新聞休み。五時半より掃除初む。森田さん休暇。朝、萩の餅少々野口さんに遣る。昨夜十時頃、巖宅より

販りし為、遣れざりしなり。羊羹沢山買込み、道子に30
銭五本、55一本と共に、赤子の襁褓（むつき）襦袢（じ
ゅばん）等梱包。夜、中津局に態々差し出しに行かる。
夜、道子入籍に付き、届け書き、書き初めらる。余等の
分も序でに依頼す。多少冷ゆ。火を起こさざりし。此日
終日、萩の餅にて他に食事を摂らず。

昭和16年3月23日（日）

曇り、午後より降雨。甚十郎氏より手紙来たり。二十六
日、大連出発とあり。東京敏子さんは二十四日夜、特急
にて出発。二十五日夜、山本着。二十七日法事。午前
十時過ぎより出局。報告物の準備に着手。行火に火を起
こして貰ふ。道子に手紙を書く。夜、巖草入り団子持参。
野口さんにも分配す。玉櫓屋より饅頭三月三節に当たり、
子供の祝いとして持参さる。余、夕飯に其の饅頭四つ、
シンコ二つ頂き、夕飯を欠く。八時五十八分、森田さん
販宅。野口さん迎ひに出掛けらる。森田さんから萩の餅、
柿餅、大根漬け、大根乾し等頂く。風邪の気味。心の空
隙が原因するとせば、頃日、余の心は甚だ共調に乏し。

昭和16年3月24日（月）

朝冷氣、温度下降。曇り、後多少晴れ気味なりしが、大
方曇りの儘暮る。ミワさん切手請求に行かれ、余、新聞
半途にして出局。伊勢さんに加勢す。痰出づること多し。
四時より行火に火を採る。夕方敏子さんより電報、唐津
或る旅館に落ち着かれたとあり。本朝届きし速達葉書は、
昨東京午前十時三十分発、下関午前六時着。或いは、
中津に立ち寄るかも知れぬとあり。遂に直行せしものの
如し。切手三銭百枚不足と、ミワさん当惑さる。帳面に

付け落としと観ぜらる。夕食に、余り寒いから暖まるものと、うどん造らる。

昭和16年3月25日（火）

初めの間は曇り、後次第に晴れ。風も夕方より風ぐ。切手請求はせぬ積もりの処、葉書七千枚、売捌き所より請求。六千枚渡し、一千枚は午後渡すこととし、不取敢、八千枚請求することとせり。午後より白皮囊二ヶ持ち、余、前後に肩より吊り下げ来る。明朝、母堂宇寸出発に付き、九時頃より風呂行き。生憎風呂お休み。別の風呂に行かる。香料五円贈呈のこととす。此の朝冷氣甚だし。火を起こしストーブを作らしむ。伊勢さんの丹精も、余の行火に移したると、野口さんの火鉢に盛られたるとが有効に保ちし外、物にならず。午後よりは気温緩和され、火の必要も薄らぎたり。夜、余の行火に火をつぎ十時まで、仕事したり居睡りしたり。

昭和16年3月26日（水）

朝、行火に猶火がある為、局にて新聞を見る。六時より掃除、表道路も掃く。七時より朝食。八時半、猶仕度出来ぬらし。荷物を纏めて呉れと余に注文したるも、行火の世話をして居り、大いに御機嫌を損せり。専務服を着し、荷物を持ちて駅に走る。ミワさん母堂の手を取り、駈けて来らる。ブリッジを渡り終わり、汽車到着。充分に掛ける処あり。此日より入場券を販売せず。余荷物の関係より、其の俣通過さして貰ふ。昨、高倉氏より十五円家賃入り、切手より三十円持ち行かる。山本まで賃2, 70づつ。昨準備して置き都合がよかりし。八時五十三分発車。十時十九分小倉着。午前十時五十分発、午後零時

四十分博多着。買物をして、二時二十八分発にて山本に向かわる。午前中晴れ、次第に曇り。遂に降雨す。余、此の機会に断食せんとす。朝炊きし飯、残り多し。此日為替閑散。森田さん恙（つつが）あるらし。二階で四時近くまで、一時頃より休む。給料経費到着に付き分配す。報告物着々整備す。ストーブ焚く。

昭和16年3月27日（木）

峯氏の法事、山本にて営まるる日なり。甚十郎氏は昨日大連発航、明朝門司に到着予定。晴天なるも風寒し。朝湯を頂く。茶を造り、仏前に供ふることを得たり。夕食まで飯あり。愈々、明朝より断食に入らんとす。森田さん甘藷を以て誘惑せんとす。五時より火を起こして行火に入れたり。電報及び切手類を始末し、本朝刊新聞を閲し、終われば十時に垂（なんな）んとす。顔を洗ひ戸締まりして、寝る時は十時二十分なりし。

昭和16年3月28日（金）

朝の間、風猶強く、廊下の埃逆流す。神棚の御供えを済まし、表道路を掃除す。五時半より六時迄は、新聞昨夜配達分を事務室にて閲読す。昨夜入れ置きし火に木炭をつぎ、行火を拵ふ。今日より絶食。朝野口さんより湯を頂き、茶を仏様に供へ、余も頂く。正午は湯を沸かして頂く。今日も寒気相当に手応えあり。火鉢を持込み火をつぎ、為替と郵便とに配置す。森田さん、相談所に診て貰ひに行くと謂はる。島原先生に手紙を書き、持たせて遣る。十一時頃より一時過ぎまでかかる。手紙遅く披見されし為なりと。特に手交する際、看護婦より注意せざりし結果、配達を受けたる郵便物と認め、閑を得るまで封

を切らざりし如し。ミワさんに封緘葉書にて後任物色に付き、注意を促したるもの。森田さんは熱なしと謂はる。御飯の量は甚だ少なきやにて、野口氏も注意する所あり。此の日、午後は甚十郎氏唐津着。法事打合せの筈。森田さん医師より販りての咄。菅家原さん、非常に待たせて気の毒なりと詫びらる。感じのよい人だと。伊東より薬五日分貰ひ来らる。一円支払ふと。結果に依りレントゲンを撮る由。大したことなしと云はれ、急に元気づける如く、部署に就き、快活に話さる。今日の天気予報は晴れたり曇ったり。昨日の今日分予報は、晴天と云ふ振れ込みなりしが、的中せざりし。夕方、行火に丸豆炭数個を入れ、木炭を加へ、八時より和服を着用。切手類請求初めてのこととて、従来の方と睨み合わせて作製せり。30銭残したり。十時までかかる。ミワさん封緘葉書発送。何処に居るか不明とて、少々面喰らふ。夜野口さん湯を下さる。茶を飲む。足ふらつき冷汗流る。寝る前、身体を水にて拭ひ休む。足冷えて容易に眠られず。当惑せり。

昭和16年3月29日（土）

前日同様、曇り時々細雨。風止みたるも温度は低し。火鉢に六時前、火を起こし、早く茶を仏壇に供ふ。便通殆どなし。ミワさんより二十九日か三十日販局の由、通知あり。野口さん二階四畳半大掃除。塵埃、階下事務室に落下。事務費の雑費、臨時増額拾一円。

昭和16年3月30日（日）

此日珍しく快晴。雨も、家屋内は終日、冷氣減退せず。午前中新聞を事務室にて見、午後より事務服に改め、益々消耗品の年度末調査に衝（あた）る。一時半の列車

にて母堂、敏子さん、計一坊等来る。敏子さん東京出発の際、既に具合が悪く無理に来られ、唐津にて医師にかかり、宿屋に二泊静養せしと。そこへミワさん等、山本に直行、再び唐津に引き返し看病せしと。法事には間に合い参列せりと。余の断食は丸二日と今朝とにて、痔の方は頗る良好を感ず。別に何も欲しくなし。夜、白玉粉を求めさせ、糊として頂く。八時五十六分の汽車にて、甚十郎さん来る。事務室にて暫く咄し風呂に行かる。母堂も一緒に六畳に休まる。

昭和16年3月31日（月）

ミワさん神様に遣る。便所に行きしも出ず。昨ミワさん敏子さん等を誘ひ、福澤旧邸を観に行かる。敏子さん局員に銘々、東京よりの土産品を配らる。午前十時三十三分出発。ミワさん駅に送る。下関午後零時五十分、余の上京の際、利用汽車に相当す。此の夜より燈火管制。空腹耐え難し。朝、赤玉糊頂きし儘、催促するやうにして頂く。柿餅焼き、是れ亦頂く。夜九時に退出。早く寝る。睡魔に冒され耐え難し。